

授業科目	臨床判断	担当教員	専任教員☆ ①若山志ほみ ②中澤敏治	単位数	1	時期	2年次 6月～12月	DP	4
				時間数	30				
目的と目標	<p>その場の状況・状態を適切に判断し、安全で質の高い看護を提供するための看護実践の基礎を学ぶ。</p> <p>1 対象者側と医療者側に潜む看護・医療事故の危険因子を理解し、正確で安全な方法について理解できる。</p> <p>2 事例の患者の「場」「状況・状態」を適切に判断（気づき・解釈）し、看護の優先度を考慮して、安全で倫理的な方法（行為）が実施できる。</p> <p>3 事例の患者への一連の行為を省察することができる。</p> <p>4 看護業務における多重課題への対処方法について理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	その場の状況・状態に応じた安全で倫理的な看護技術 (20時間)	(1) 対象の理解 (2) 環境の理解 (3) エビデンスに基づく看護実践 ①事例におけるリスクを回避するための具体的な内容、方法を検討する ②「場」「状況・状態」を適切に判断（気づき・解釈）し、看護の優先度を考慮した、安全で倫理的な方法（行為）について考え実施する ③行為後の省察を通して、行為について考察し、次につながる学びを導く			講義 演習	専任教員 (若山志ほみ)			
11 12 13 14	多重課題への対応 (8時間)	(1) 複数患者を受け持った場合の1日の業務の組み立て方 ①看護チームの情報伝達・共有 ②スケジュール管理のための工夫 ③業務時間の管理 (2) 多重課題への対処 ①多重課題の危険性 ②多重課題発生時の対処の原則 (3) チームで協働するための必要な条件を考える			講義 演習	専任教員 (中澤敏治)			
15	試験	(1) 筆記試験 (2) 技術試験				専任教員 (若山志ほみ)			
評価方法	筆記試験 50点 技術試験 50点 合計 100点								
教科書 参考文献	系看 統合 看護の統合と実践2 医療安全（医学書院） 新体系 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全（メヂカルフレンド社）								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	看護マネジメント	担当教員	専任教員☆ ①若山志ほみ 外部講師☆ ②中川 千草 ③永田 陽子 ④田口 路代 ⑤野村 小夜子 ⑥川上 雅代	単位数	1	時期	2年次 9月～12月	DP	5 7
			時間数	15					
目的と目標	看護の対象となる人々に効率的・効果的な看護サービスを提供するためのしくみを理解し、看護組織の一員としての役割について学ぶ。 1 医療・看護の質向上における看護管理の実際を知り、その重要性が理解できる。 2 看護師としての生涯学習の必要性を理解し、看護師としてキャリア形成に向けた自己の課題が明確にできる。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	看護組織・看護管理とは	(1) 看護管理とは (2) 看護管理の基盤となる知識 ①組織とは ②医療機関の組織構造 ③看護サービスの提供 (3) 看護管理のプロセス				講義	外部講師 (中川 千草)		
2	看護政策・制度	(1) 看護における政策・制度の現状 (2) 看護専門職の課題と展望				講義	外部講師 (永田 陽子)		
3	看護サービス管理	(1) 管理の目的				講義	外部講師 (田口 路代)		
4		(2) 看護管理で重要なこと (3) 人材マネジメント、労働の管理、労働環境管理				講義			
5	組織的な安全管理	(4) 看護の人員配置基準と看護サービス評価 (1) 組織における安全管理 ①リスクマネジメントの考え方 ②労働安全管理と人員配置 ③医療事故予防の組織的取り組み ④医療事故の分析手法 ⑤感染管理				講義	外部講師 (野村小夜子)		
6	生涯学習とキャリア	(1) 看護師としての生涯学習 (2) 看護師としてのキャリア ①看護師のキャリア発達理論 ②看護師としてのキャリア開発 ③組織としてのキャリア開発支援				講義 *統合実習後	外部講師 (川上 雅代)		
7	今後のキャリアと自己の課題	(1) 2年間の振り返りと看護師としてのキャリア形成に向けた自己の課題を明確にする。					専任教員 (若山志ほみ)		
8	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 85点 (1回:10点、2回:15点、3・4回:30点、5回:15点、6回:15点) レポート 15点「2年間の振り返りと看護師としてのキャリア形成に向けた自己の課題」 合計 100点 *再試験の場合、筆記試験 85点およびレポート 15点 合計 100点分で評価する。								
教科書 参考文献	系看 統合 看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院) 新体系 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 (メヂカルフレンド社) ナーシンググラフィカ 看護管理 (MC メディカ)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員 の実務経験	①②④⑤⑥看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③看護師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	国際看護・災害看護	担当教員	専任教員☆ ①橋本沙生子 外部講師☆ ②藤垣 恵 ③長縄 保宏	単位数	1	時期	2年次 6月～7月	DP	1
			時間数	15					
目的と目標	国際看護・災害看護の活動の実際を知り、国際看護・災害看護への関心を深めるとともに、看護の役割と基礎知識について学ぶ。 1 グローバル化する日本における国際看護の重要性と国際看護活動の現状が理解できる。 2 災害時の健康障害と災害医療の特徴を知り、災害看護の役割が理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	国際看護 災害看護	(1) 国際看護の対象 (2) 日本に在留する外国人 (3) 岐阜に在留する外国人 (4) 異国で暮らす外国人が抱えやすい3つの壁 (「言葉の壁」、「制度の壁」、「こころの壁」) (5) 日本の国際協力 (6) 国際看護活動の実際			講義 GW	専任教員 (橋本沙生子)			
2					講義	外部講師 (藤垣 恵)			
3					講義	外部講師 (長縄 保宏)			
4					講義	外部講師 (長縄 保宏)			
5					講義	外部講師 (長縄 保宏)			
6					講義	外部講師 (長縄 保宏)			
7					講義	外部講師 (長縄 保宏)			
8	試験 (1時間)	(1) 災害の定義 (2) 災害の種類と健康被害 ①災害の種類 ②災害と健康障害 ・圧挫症候群 ・深部静脈血栓症 ・低体温症 ・生活不活発症 ・災害後の心的ストレス ・災害関連死 ③災害と感染制御 ・災害後の時間経過と感染症の発生リスク ・被災地の感染防御 ④災害医療の特徴 ・災害時の医療の考え方 ・トリアージ ・災害医療対応の整備 ⑤災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ⑥災害看護と法律 (3) 災害看護の定義と役割 (4) 災害看護の対象 (5) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 (6) 被災者特性に応じた災害看護 ①子ども ②妊産婦 ③高齢者 ④障害者 ⑤精神障害者 ⑥慢性疾患患者 など (7) 災害看護の実際 (創傷処置、包帯法を含む)				専任教員 (橋本沙生子)			
評価方法	筆記試験 100点 (1回:10点、2・3回:20点、4～7回:70点)								
教科書 参考文献	看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員の 実務経験	②助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	チーム医療と多職種連携	担当教員	専任教員☆ ①鬼頭真左子 ②橋本沙生子	単位数	1	時期	2年次 9月～11月	DP	6
			外部講師☆ ③和田 葵	時間数	15				
目的と目標	多職種連携に必要な能力について理解し、多職種連携・協働における基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。 1 看護師の専門性および多職種連携・協働における看護師の役割について理解できる。 2 他職種の役割について理解できる。 3 多職種連携・協働に必要なコミュニケーションとリーダーシップについて理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	多職種連携の実際と看護師の役割	(1) チーム医療と多職種連携・協働の必要性 (2) 医療現場におけるチーム医療・多職種連携の実際と看護師の役割			講義	外部講師 (和田 葵)			
2 3	多職種連携を円滑に行うスキル (3時間)	(1) 多職種連携・協働に必要な能力とは (2) 多職種連携・協働に必要なコミュニケーション (3) 多職種連携・協働に必要なリーダーシップ ①リーダーシップとフォロワーシップ ②リーダーシップの種類 ③多職種連携・協働に必要なリーダーシップを考える			講義 演習	専任教員 (鬼頭真左子)			
4 5	専門職の理解	(1) 看護師の専門性 (2) 他職種の専門性			講義 演習	専任教員 (鬼頭真左子)			
6 7 8	多職種連携・協働を円滑に行うスキル活用の実際	(1) チームにおけるコミュニケーションの実際 ①よいチームの要件 ②チームのコミュニケーションにおける自己の傾向への気づき *チームビルディング演習からチームにおけるコミュニケーションのあり方を具体的に学ぶ。また、ここでの学びを専門職の連携・協働にどのように活かすか検討する。 (2) 自職種の専門性を他者に伝え、他職種の専門性を理解する。 (3) 事例検討を行い、専門職連携・協働に必要なコミュニケーションについて考える。 (4) まとめ *自職種の専門性について説明する経験を通して、相手に理解してもらえるような表現であったか、自職種の専門性を自分自身が理解しているか省みる。 *事例検討をとおして、チーム医療における自職種の専門性を発揮するとともに、多職種を活かすことができたかを振り返る。			講義 演習 (歯科系学科合同)	専任教員 (橋本沙生子)			
評価方法	レポート100点 「多職種連携・協働における看護師の役割と多職種連携・協働を円滑に行うために必要なコミュニケーション」								
教科書参考文献	新体系 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 (メヂカルフレンド社)								
事前準備や受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。								
☆担当教員の 実務経験	①②③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	看護研究	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	2年次 6月～12月	DP	1 4	
			中澤 敏治	時間数	30					
目的と目標	<p>研究の意義と方法を理解し、より適切な看護実践につなげるための看護研究の重要性を学ぶ。</p> <p>1 看護における研究の意義を理解できる。</p> <p>2 研究の一連のプロセスを知り、研究目的にあわせた研究方法と研究デザインについて理解できる。</p> <p>3 文献の検索方法を理解できる。</p> <p>4 自己の看護の経験と看護の概念を結びつけ、看護に対する自己の考えを論理的に表現できる。</p>									
回数	学習課題	内容				方法	担当教員			
1 2 3 4 5 6	看護研究の プロセスの理解	<p>(1) 看護研究とは何か (目的と意義)</p> <p>(2) 研究テーマを明確にするためのプロセス</p> <p>(3) 研究プロセス全体の時間的な流れ</p> <p>(4) 研究における倫理</p> <p>① 研究実施にあたっての倫理的配慮</p> <p>② 看護研究における倫理指針</p> <p>(5) 文献検索と文献検討</p> <p>① 文献検討の必要性</p> <p>② 文献の種類 (一次資料・二次資料)</p> <p>③ 文献検索の方法</p> <p>ア 医中誌 Web、JMEDPlus など和文献の検索方法</p> <p>イ データベースを用いた体験学習*</p> <p>(6) 研究の方法・研究デザイン</p> <p>① 量的な研究と質的な研究の特徴</p> <p>② 研究デザイン</p> <p>ア 質的研究 イ 量的研究 ウ 事例研究</p> <p>(7) データ収集・データ分析</p> <p>① データの収集方法と分析 (生物学的測定法・観察法・面接法・質問紙法)</p> <p>② 実例から学ぶデータ分析 (記述統計・推測統計・検定)</p> <p>(8) 研究計画の目的と概要</p> <p>(9) 論文の構成とまとめ方</p>				講義 演習	専任教員 (中澤敏治)			
7 8 9 10 11 12 13 14 15	看護研究の実際 (合計 17 時間)	<p>(1) 看護観の作成の基本</p> <p>(2) 「私の看護観」についてのレポート作成</p> <p>・2年間の自己の看護実践を踏まえ、看護において自分は何を大事にしたいと考えるか、また、どのような看護を行うかについての自分の思いや考えについて、文献を用いて考察を深め、レポートを作成する</p> <p>(3) 発表および質疑応答の方法</p> <p>(4) 看護観発表会 (1・2年生合同)</p>				講義 演習	*			
	試験 (1 時間)					講義 発表				
評価方法	筆記試験 40 点、レポート 60 点 合計 100 点 *再試験の場合、筆記試験 40 点およびレポート 60 点 合計 100 点で評価する。									
教科書 参考文献	ナーシング・グラフィカ 看護研究 (MC メディカ出版)									
事前準備や受 講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題 (文献検索等) に対して、期限を厳守して提出する。									
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。									

